



2024.1.15

# 校長室から

## No 1 1



### 新年を迎えて

3学期が始まりました。新年早々、災害や事故など心が痛む報道が続いております。被災者のみなさまに、心からお悔やみ申し上げるとともに、今一度、気を引き締めてスタートしたいと思えます。始業式では、「学び」についてお話ししました。弘前中央高校生には、高校生活全てを全力で過ごし、これから生き抜く力をつけて欲しいと思っています。

### 進取の精神 100年前のセーラー服

昨年度末、運動会について少しだけ紹介いたしましたが、本校の制服にも歴史があります。2年前、2022年1月1日の東奥日報の記事をご覧ください。「ハイカラ少女の憧れ～県内一号は弘前高等女学校」として弘前中央高校の前身である、県立弘前高等女学校が紹介されました。記事によると、県内で最も早くセーラー服を取り入れたのは県立弘前中央高等学校の前身の県立弘前高等女学校。1922（大正11年）です。我が国で初めてセーラー服を制服としたのは名古屋の学校で、1921（大正10年）のことだそうです。その1年後には、本校に導入されておりますので、県内、市内で一番早かっただけではなく、全国的にも最先端での洋装化であったようです。

本校の80周年記念誌によると「綿サージのセーラー服に、木綿または毛糸編みの長靴下、茶の短靴、白リボン付きの黒麦わら帽子に黒のネクタイ」という出で立ちでした。当時は注目を集め、恥ずかしがって裏通りを選んで通学した生徒もいたと記載されています。創立以来、時代の先端を走っていた本校の歴史を感じる事ができます。今年も、歴史と伝統に裏打ちされながら「進取」の精神をもって進んでいきたいと感じています。



明治期の正装



初めてのセーラー服（大正11年）

（文責 齋藤 郁子）